



日本高野連発第15-0073号
平成27年11月27日

都道府県高等学校野球連盟 会長殿
都道府県高等学校野球連盟
理事長、専務理事、代表理事殿
審判委員各位
加盟校 学校長殿
同 野球部 責任教師殿

公益財団法人 日本高等学校野球連盟



会長 八 田 英



「次打者の待機姿勢」について

次打者の待機姿勢については、毎年、当連盟・審判規則委員会から発信している「周知徹底事項」や「全国高等学校野球選手権大会（全国大会）試合規定」「選抜高等学校野球大会 大会規定」の中に記載しておりますが、この解釈について質問が寄せられておりますので、来年度より下記の通りとすることとなりましたので、お知らせいたします。

各都道府県高等学校野球連盟におかれましては、平成28年度のシーズンインへ向けて、加盟校、大会（試合）を運営する関係者、審判委員へ周知徹底いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

～周知徹底事項（新規）～

危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手（特に次打者、ブルペンの選手）は投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。

<参考>

～周知徹底事項（従来）～

次打者は投球時には低い姿勢でプレイに注視する。

（低い姿勢とは、座る行為も当てはまるが、投球を注視して身体を屈め、打球が自分のところに飛んできて、すぐに避けることのできる姿勢を意味する。）

～解説～

次打者はネクスト・バッタースボックスに速やかに入る。投球間はスイングをすることも可能だが、投手が投手板に位置したならばスイングをやめプレイに注視する。この時、必ずしも低い姿勢をとる必要はない。

また、試合会場によってホームベース後方のファウルエリアが狭く、バッタースボックスとネクスト・バッタースボックスが極端に近い場合、ネクスト・バッタースボックスの配置に危険が無いよう考慮すること。

以 上